



◎お話を聞かせてください！

5月28日（土）は、草加市内の小学校各校で運動会が行われました。コロナ禍での実施に伴い、学年やブロックごとの発表のところもあったと思いますが、お子様一人一人にとって思い出に残る一日になったことと思います。保護者の皆様におかれましては、お子さまの健やかな成長を見ることのできる貴重な機会になったのではないのでしょうか。次回のことば・きこえの教室では、お子様から、運動会の話たくさん聞かせていただきたいと思います。

◎難聴児童生徒理解研修会について

5月10日に、草加市内の難聴児童の担任の先生、または特別支援コーディネーターの先生向けの難聴児童生徒理解研修会が行われました。

埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園の3名の先生方から、きこえのしくみや難聴児童への適切な指導方法について教えていただきました。先生方全員で難聴擬似体験として、耳栓とヘッドフォンを装着しことばを聞き取りました。聞こえにくい児童がいかに神経を使ってことばをきいているのかを実体験をもって知ることができました。コロナ禍で3年ほど研修会は未実施でしたが、とても貴重な体験をすることができました。

また、ことば・きこえの教室の担当は今回とは別に、難聴児童の個別指導のための研修を年間を通して行っています。保護者様からの「今回の研修はどんなことをやったのか？」という疑問や、担任の先生からの研修会への疑問等がございましたら、いつでもご連絡ください。

また、担任の先生向けの「難聴児童・生徒理解ハンドブック」という本がございます。お貸してきますので、よろしければご連絡ください。



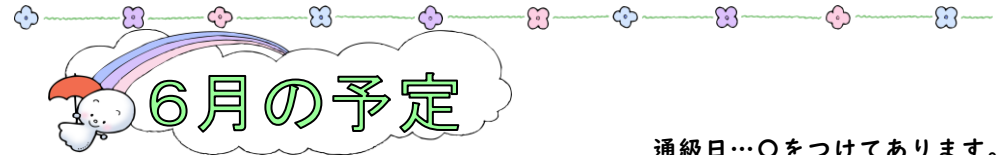
☆難聴とは…

聴力が弱いため、音声がよく聞こえない、また、話や音が聞き取りにくいこと。発音が明瞭であると、周囲からは、全て聞こえていると思われやすく、静かに困っていることが多い。

補聴器や人工内耳をつけていても聞き分けは完全ではありません。補聴器や人工内耳は、聞きたい音だけでなく、周囲の雑音も大きくしてしまうからです。多くの音の中から自分に必要な情報を選ばなければいけないのは、とても大変なことです。難聴の人は、常に集中して目や耳を使うので、疲れやすいと言われています。健聴の人では可能なカクテルパーティー効果（騒がしい状況や多くの人が話している中でも自分に必要な声はしっかり聴きとれること）はかなり難しいと思われます。

そこで、難聴児童への学校生活における配慮についてご紹介させていただきます。

- 1 はっきりとした口調で、大きめの声で、少しゆっくり話す。
 - ・大きすぎる声は、耳に響いてしまうため、耳によくありません。
 - ・相手との距離は、離れ過ぎず、近づき過ぎず、1mくらいがよいそうです。
 - 2 正面から話す。
 - ・コロナ禍によるマスク装用のため口元はみえませんが、難聴児童は話し始めが分からないことが多いため、注目させてからお話ください。身振り手振りも大変有効です。グループ活動の際なども、発言者が一度手を挙げてから話し始めると、話し手が分かるため難聴児童はとても助かります。
 - 3 文字情報を多く提示する。
 - ・大切なことは、文字にして確認してください。（板書やメモはとても有効な手がかりとなります。）
 - 4 教室環境を整える。
 - ・座席は、前から2～3列目くらいがよいと言われています。（周囲の友達の様子が見られるので安心します。）
 - ・机やいすの足にテニスボールをつけることで、移動時の雑音を軽減させることができます。
- ※テニスボールが必要な場合は、在籍学校から教育支援室までご連絡ください。



通級日…○をつけてあります。

月	火	水	木	金
		1 委員会	2	3
6 特別日課 職員会議（放課後）	7	8 特別日課5	9	10
13 特別日課5	14	15 委員会 校内研修（放課後）	16	17 埼玉県特別支援教育 研究会（ことば・きこえ） 全日 授業なし
20 特別日課 校内研修（放課後）	21	22 クラブ	23 事務連絡会 （午後）	24
27 特別日課	28	29 委員会	30	